

国鉄 1047 名解雇撤回！1100 人で大成功

「東京高裁・難波孝一裁判長は解雇撤回の判決を出せ！」——動労千葉鉄建公団訴訟控訴審の判決を目前に控えた9月15日、動労千葉と国鉄闘争全国運動の呼びかけた総決起集会在代々木公園ケヤキ並木で開催された。全国から1100人の労働者・農民・学生・市民が集まり、渋谷の街を席卷する大デモを行った。集会での動労千葉田中委員長のあいさつを紹介します。



← 台風が心配されたが昼過ぎには奇跡的に雨が上がり汗ばむほどの好天気の良い集会成为となった。

今日の集会をここで催した理由はただひとつです。東京高裁が9月25日に予定されている1047名の解雇撤回をめぐる裁判に勝利することです。勝利判決を今日の集会和デモで絶対にもぎりとりたいと考えています。高裁に向けた署名運動を展開してきました。今日を最終的な集約の日にしました。本日で署名は4万名を超えました。本当に全国の取り組みありがとうございました。26年間にわたる闘いです。ただ単に国鉄労働者だけではなくて、日本のすべての労働者が国鉄分割民営化攻撃をきっかけにして、ここまで権利を破壊され、未来を奪われ突き落とされました。もう我慢は限界です。こんな現実はいくらもありません。こういう現実をわれわれはひっくり返したいと思っています。腐り果てた世の中です。怒りの声を叩きつけて、本当に労働者が、人間が人間らしく生きられる社会をつくりたい。そのために、9・25判決に勝利したいと思います。国鉄分割民営化はまさに暴力的な首切り攻撃であり、労組破壊攻撃でした。多



くの労働組合がその攻撃を見て、みんな後退してきました。こんなことをやられるのか、国鉄とJRは別会社で、国鉄はなくなるんだから全員やめてもらう。JRは新しくつくる民間会社だから誰を採用しようが採用の自由だという。仮にこの過程で組合つぶし、不当労働行為が吹き荒れても新しくできた新会社には不当労働行為は一切責任は及ばないと言うんですよ。こんなことが労働者全体、社会全体に適用されたら一体何が起きるのか。現実にはそれから26年間起きてきたことを見て下さい。2000万の労働者が権利を破壊されて非正規職に突き落とされたんです。その出発点が国鉄分割民営化だった。だから僕らはこれは10年闘おうが、20年闘おうが、30年闘おうが、これだけは絶対にうち砕かなくては行けないと固く決意を固めたんです。そして僕らの闘いはついに、最後のねじ一本を抜けば、この26年間権力がやってきたことすべてが崩れ落ちるところまで闘いの核心に迫りました。われわれの力をこの一点に集中して、この26年間の民営化とか非正規化とか、すべてが間違っていた、このことを敵に認めさせましょう。われわれが暴き出した真実は、別法人どころか、誰を不採用にして解雇するか、すべてJRの設立委員会と旧国鉄幹部と、そこに運輸省幹部まで加わって、全部を詳細に決めていたんです。別法人どころか国もJRも国鉄もすべてが絡んだ国家的不当労働行為だったということです。26年間かかりましたがついにこの真実を具体的に暴き出しました。誰がやったのか。井手であり、葛西であり、当時の日経連会長であった斎藤英四郎であり、当時の運輸省幹部であった林であり、全部特定しました。だから本来25日の判決は、勝利判決、JRにわれわれが胸を張って戻ると

9月20日
No116

国鉄高崎動力車連帯労働組合
(連絡先: srkc.jp@yahoo.co.jp 048-722-7107 fax 共)

動労連帯が組織拡大！TTS から S さん加盟

9月1日付で動労連帯に、高崎鉄道サービス籠原事業所の S さんが加盟した。12日付で TTS に通告するとともに 9・15 集会で漆原副委員長より明らかにされた。外注化・非正規職化と真正面から闘っているのは動労連帯だ。動労連帯に結集して外注化・非正規職化を止めよう！

う判決以外にはあり得ません。だけどこの真実を暴き出したとたん大変なことが起きました。この真実を認定した裁判長は更迭されました。そしてその更迭を見て高裁の裁判長は一人の証人も調べないまま結審を強行して 25 日の判決を指定したんです。これは単に司法反動ではないですね。国家権力の意思、この真実が暴かれたら全部暴かれる。福島原発事故と同じことです。それに恐れをなした国家権力の意思です。じゃあ上等だ。これをうち砕いてやる。うち砕いて、20 数年間の労働者の怒りをはらしてやる。その決意で今日はデモをしたいと思います。

職場では新たな外注化の事前通知が僕らの仲間達に行われています。民営化の攻撃はこれでは終わらなかったということです。民営化の次に来たのは鉄道業務のすべてを下請け会社にばらばらに突き落としていく、安全も雇用も全部なぎ倒していくという攻撃でした。だから民営化、外注化攻撃だけは絶対に許してはいけないということです。僕らは絶対に闘い続けます。こんな外注化は違法行為であり偽装請負だ、だったら本当に粉砕するまで、悔しくて、この職場の現実を認めることは出来ないから闘い続けます。実は、外注化の裁判をめぐっても 9 月 20 日の裁判が一昨日延期になりました。何で延期になったのかというと、われわれの仲間達が強制出向に出されているのかかわらず、どんな委託契約の下に強制出向に突き落とされたのか団体交渉でもどんな場でも全く当局は明らかにしていないんです。だから裁判の場で委託契約書を出せと裁判所に提出命令を求めました。しかし、裁判所は言を左右にして J R に対して委託契約書を出せと言わないんです。一昨日、進行協議なるものがありました。だけど裁判所は出さなくていいとも言えない、グラグラになったんですね。それで何をやったかという、J R に対して委託契約書を、後で偽造したりできないように公証役場に持って行って確定日付で委託契約書を確定してこいと命じたんです。わかりますか、裁判所が J R に対してこいつらは偽造したりするブラック企業だということをあらかじめ突きつけたということなんです。それまでのあいだ組合側の主張は出来ないだろうから延期しますというんです。ここでも僕らの闘いは J R を追い詰めています。だけど本当の意味で外注化を粉砕するためには私たちの決意は違います。職場で本格的に組織拡大する以外にこれまで労働者を襲ってきた民営化とか外注化と

か、資本の本質的攻撃ですからこれを粉砕することはできない、つまり闘う労働組合を全国に拡大する以外の勝利の道はないんだということを固く決意しています。全力を尽くして組織拡大に立ち上がっています。全国のあらゆる産別の仲間達がともに闘って欲しいと思います。

最後にもう一点です。腹の底から怒りが煮えくりかえって許せないことがあります。この安倍政権の姿です。集団的自衛権を容認する、これはクーデター的憲法解釈の転換です。戦争と改憲の道に突き進もうとする、こんな奴らを許していいんですか。福島の現実はその汚染水問題とか、手を打つことが出来ないような現実になっているにもかかわらず、安倍はなんて言ったのかということです。すべてはコントロールされていて安全だ、あのオリンピックの空騒ぎ、あれは福島見殺し政策だ。真実をくびり殺そうとしているんですよ。こんな連中は打ち倒さなければいけない。T P P の秘密交渉は許せない。それともうひとつ、労働者に対する全面戦争です。民間活力の爆発なる名の下に、破滅的なアベノミクスなる名の下に何をやろうとしているのかということです。限定正社員制度というのは全労働者の非正規化です。派遣法の抜本改悪、冗談じゃない。それと国家戦略特区なる名をもって労基法を適用しなくていい特区をつくる、解雇自由の特区をつくる、こんなことを言ったとたん三日前の新聞です。大阪の橋下が、大阪市と大阪府で労基法適用除外の、解雇自由の戦略特区を申請すると言っています。だけどこんなことが通用するとは思えません。労働者は気がつき始めています。もうこんなことはたくさんだ。競争したら豊かになると言ってそんなウソをつかれて何が行われてきたか、誰でも今は分かっています。もうすべてが限度と限界を超えている。闘いは始まります。多くの労組大会で腐り果てた労組の幹部達は崩れ落ちました。現場の怒りが吹き出し始めました。ここから勝負です。私たちは 25 日の判決がどうなるかが闘い続けます。国鉄分割民営化には決着をつける。そして安倍政権による国鉄分割民営化を数十倍する民営化地獄に社会をたたき込むような攻撃を絶対に粉砕してやる、このことを通して闘う労働組合を甦らせましょう。今日の集会とデモを成功させて、11 月 3 日に日比谷野外音楽堂で、3 労組の呼びかけで全国労働者総決起集会を開催します。ここを時代のひとつの転換点にしたいと思います。それを実現するのは僕らの決意と行動です。決意と行動が鮮明ならば必ず出来ません。ともに闘いましょう。